

Vol.16
May 2025

Harmony

はあもに

希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、
たゆまず祈りなさい。

ローマの信徒への手紙 12章12節

Be joyful in hope,
PATIENT in affliction,
faithful in prayer.

Romans 12:12
New International Version



Bangladesh の
子どもたちに魅せられて
ACEF理事 井上儀子

希望につづく道を共に歩もう
救世軍フェアトレード事業「Others (アザーズ)」
「キャンドル・オブ・ホープ」プロジェクト

必要でありつづけるかぎり
救世軍上野小隊 山谷給食

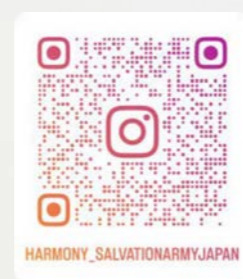


To Women, For Women and By Women

陽の当たらない場所で、ひっそりと、懸命に生きている子どもたち。
朝昼晩ご飯を食べて、ふかふかのお布団で眠り、学校へ行く。
そんな当たり前と思えるような環境が、彼女たちにはありません。
彼らがお腹いっぱい食べられるように、
夜は安心してぐっすり眠れるように、
学校へ行って笑顔でお友だちと過ごせるように、
心から願っています。

『はあもに』は、できるだけ多くの人と分かち合いたいことがあるため
Instagramを始めました。
いつでも、どこでも、『はあもに』とつながって、
あなたの人生が豊かになるお手伝いができますように。

はあもに
Harmony



CONTENTS

『はあもに』第16号 目次

- 4 **バングラデシュの子どもたちに魅せられて**
ACEF理事
井上儀子
- 8 **希望につづく道を共に歩もう**
救世軍フェアトレード事業「Others (アザース)」
「キャンドル・オブ・ホープ」プロジェクト
- 10 **一つの部分が苦しめば、
すべての部分が共に苦しみ**
ばいぶるメッセージ
樋口光世
- 12 **必要でありつづけるかぎり**
救世軍 上野小隊
- 14 **はあもにブックレビュー**
『三つ編み』『あなたの教室』
- 16 **心の目が曇るとき**
いのりのじかん
アンネリ・アーヴィク
- 18 **はあもにニュース**
3月8日は国際女性デーでした
認知症マフがたくさん寄付されました
定期購読のお知らせ



初めてのレンガの校舎
が完成した時の喜び

Beautiful Children in Bangladesh

Bangladesh の子どもたちに 魅せられて

井上 儀子

「神さま、屋根があり、ベッドがあり、食事があり、靴があることを感謝します。もし私が不平を言い始め、大いなる恵みを忘れてしまったなら、お許しください。」

Thank you God for the roof over my head, a bed to sleep in, food on my table and shoes on my feet. Forgive me if I ever start to complain and forget my great blessings. Amen

これはインターネットでよく拡散される有名な祈りです。日本では当たり前だと思っていたことがそうではない世界を、私はバングラデシュで見ました。初めて訪れたのは1992年。独立して21年経ち、やっと小学校の義務教育化が始まったところでしたが、学校に通える子どもは少なく、識字率は27%と言われていました。今のようにインターネットで瞬時に世界の様子がわかるということはなかったので、日本では想像できない初めて見る世界に驚きの連続でした。日本と比べれば何も無いその世界で、子どもたちも大人たちも生き生きと目を輝かせていました。私は、その目に魅せられ、バングラデシュに引き込まれました。たくさんのお会いがあり、たくさん涙を流し、思いきり笑い合い、怒ったり、慰められたり、すべての出会いが私の宝となっています。

バングラデシュで過ごしてきた中で、特に忘れられない子どもたちの一面を切り取って、ご紹介します。

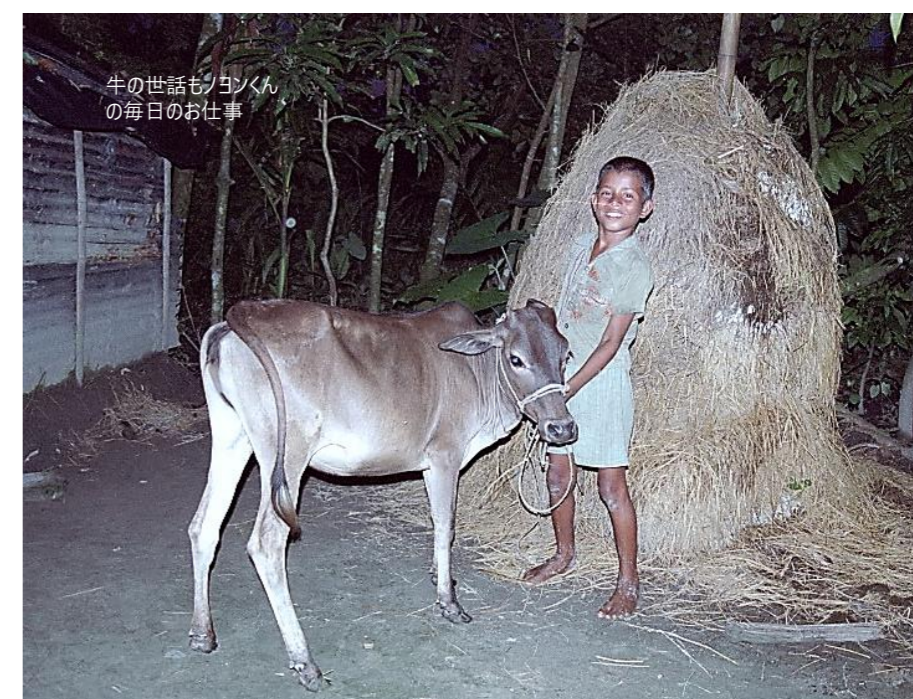


ピッティちゃんは、左端

ピッティちゃん 小学4年生

「ある人が5つのパンを持っていて、4つ食べた残りの1つのパンをもらうのと、1つのパンを半分に分けた半分のパンと、どちらが嬉しい？」という質問を私はいろいろな人に出しています。多くの日本人は、お腹がすいていたら半分より1個の方が良いかもしれないと、考え込みました。けれども、バングラデシュでは答えに迷う人は1人もいませんでした。すぐに、「半分のほう」と答えます。1個と半分よ、と念を押しても、「2人の人がいて、自分だけ食べるなんて考えられない」と言うのです。子どもにも大人にも、金持ちの人にも貧しい人にも、いろいろな背景の人々に問いかけてきましたが、答えに迷う人はいませんでした。

ピッティちゃんは貧しい家庭の子どもで、1日2食の生活です。そんな彼女が、「半分もらって私も嬉しいし、あなたも嬉しいでしょ！ あなたも嬉しいし、私も嬉しいのよ」とニコニコ笑って答えてくれたのです。これが分かち合いの原点です。私はこんな質問をしたことが恥ずかしくなりました。1個と半分という目の前の数字に気をとられて、分かち合う時にそこに心があるかどうかを忘れていました。たくさんの物の中からほんのひと握りを与えて、何か良いことをしたかのように錯覚することがあります。でも、分かち合うということは、自分の分は確保しておいて余ったものを与える、ということではないのです。



牛の世話もノソノソの
毎日のお仕事

ノソノソくん 小学1年生

北部の農村地区。今まで学校のなかった村に、NGOの学校ができました。小さなノソノソくんはいつも赤ちゃんを弟を抱っこして、妹のルジナちゃんの面倒を見つつ、お母さんのお手伝いもしていました。家族の中で学校に行った人はいなくて、ノソノソとルジナちゃんは初めて学校に行かせてもらって大喜びでした。2人ともそろって1年生になったのですが、ノソノソくんは少し年上で8歳が9歳だったと思います。先生のお話を一つ残らずすぐに覚えてしまい、とても賢い少年でした。けれども、小さいながらも、早くお金を稼いで両親を助けなければならないということは、すでに感じていたようです。

私は1週間その村に滞在していました。明日は帰るという前日の夕方、ノソノソくんは私と手をつないで歩きながらこう言いました。「ほく何でもお仕事を手伝うから日本に連れて行って！ どんなにつらくても泣かないから。ねっ！ 連れて行って！」とわたしの腕にぶら下がりながら何度も懇願したのです。あどけない少年のたわいもない夢の思い、「まず、一生懸命勉強することが今は一番大切なよ」と諭しました。でも、こんなに小さな子どもが両親を助けるために外国に行って働こうと考えるなんて……と、私の胸は張り裂けそうでした。

はあもに ニュース Harmony News

3月8日は国際女性デーでした

希望は、より良いものを信じることです。
私たちの希望は、イエス様の中にあります。

価値あるものをつくり出すすべての手を、助けを求める人に差し出されるすべての手を、そして、すべての勇気ある声を称えます。

この日、救世軍は、全世界にいる女性が力を取り戻し、その能力を向上し発揮することができるよう願う、「国際女性デー」を祝いました。バングラデシュとケニアで働く救世軍フェアトレード「Others」の職人たちをはじめ、ミッションのために働くすべての女性たちは、一人ひとりが大切な働きを担いながら、人々が平等に機会を得ることができる希望の未来をつくっています。そこには数えきれないほどのストーリーが詰まっています。

救世軍万国本営（イギリスにある救世軍本部）では、そんな「希望のストーリー」を展示しました。その一部を紹介します。もっと知りたい方は下記のQRコードからご覧ください。

希望は、そこに触れる人を照らす光です。希望は、イエスに根を下ろした人生の証しです。希望は、善いものを見つけるまでの忍耐です。希望は、過去の罪や汚れを見ずに、その人自身を見ます。希望は、廃墟とがれきに埋もれた人に投げかける可能性です。希望は、愛と施しを与え続けます。どんなに遠く、道が困難でも。希望は、より良いものを信じることです。

私たちの希望は、イエス様の中にあります。

ブロンウィン、救世軍女性部総責任者

私の手には与えるものは何もないけれど、私の人生そのものが神様にささげるものです。助けが必要な人々に愛と希望を与えるために。

エスター、アメリカ救世軍士官

暗闇にうずくまっている女性たちは、世界の反対側に希望のキャンドルがあることを知りません。

リリー、バングラデシュ「Others」マネージャー

私はとても恵まれています。救世軍は私の家族にとって希望です。

ポー、バングラデシュ「Others」職人

この足でしっかり立つために、何とかしなければいけません。少なくとも生き延びるために。

ナイラ、バングラデシュ「Others」職人



見て〜これ！
中に音の出るぬいぐるみが入ってる〜



本当だ！
かわいい〜

認知症看護認定看護師の楠元さん(写真右)『はあもに』13号、14号で「認知症を知る」を寄稿

かわいい認知症マフがたくさん寄付されました

はあもに14号で募集した認知症マフの製作に、名乗りを上げてくださった全国のボランティアさんから、次々と作品が送られてきました。

マフ本体を編んでくださった方、お花やにぎにぎ・ドーナツ・ぬいぐるみなどを編んでくださった方、それぞれの作品を合体してマフを完成させてくださった方……等、多くの皆様の協力によって、たくさんのマフを救世軍の病院へ寄付することができました。

カラフルで可愛い作品の数々に、受け取った職員からは、「こんなにたくさん作っていただけるとは思ってもいませんでした。それぞれ個性があって、工夫されていて、すごいです！」と、驚きの声が上がりと、とても喜んでいただきました。

このようなマフは認知症の患者さんが両手を入れるとふんわりあったかい。飾り触って楽しみ、ホッと落ち着くと言います。編む人にとっても使う人にとっても癒し効果が得られると期待されています。

温かい心を編んでお届けくださった皆様、本当にありがとうございました！
なお、ボランティアの募集は2024年12月で締め切りしました。



はあもに

発行日 2025年5月1日 はあもに第16号
発行所 救世軍本営 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17
TEL: 03-3237-0881
発行者 スティーブン・モーリス
編集責任者 ウェンディ・モーリス
編集者 西村和江 石川芳子 平本征子 齋藤恵子
田中民（グラフィックデザイナー兼）
創立者 ウィリアム・ブース
大将 リンドン・バックingham
聖書は新共同訳を使用しています ©共同訳聖書実行委員会 ©日本聖書協会
©本誌掲載の記事・写真・イラスト等の無断転載・使用を禁じます



Facebook

次号 2025年9月発行

【はあもに】定期購読
1冊/200円（税込・送料別）
年間3回発行（1月、5月、9月）
年間600円（税込・送料別）
ぜひ定期購読をお近くの救世軍へお申し込みください
※売上の一部を「きずな献金」として海外支援に用います

お問い合わせ
救世軍本営 女性部はあもに係
TEL: 03-3237-0881（代） FAX: 03-3237-3588
E-mail: jpn.women.harmony@jpn.salvationarmy.org
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17



救世軍は、キリスト教（プロテスタント）の教会で、伝道活動とともに、様々な問題で苦しみ、助けを求めている人々のために、130以上の国で社会福祉・教育・医療などの支援を行っています。詳しくはホームページをご覧ください。
<https://www.salvationarmy.or.jp>



Email